

賞	保存問題委員会賞
部門	建築作品部門
代表カテゴリー	②建築物の保存問題全般
タイトル	東京都豊島区 立教大学 本館(1号館/モリス館)
講評	<p>立教大学は、池袋キャンパスの煉瓦建造物6棟(1918年竣工)を大学のシンボルとして維持する計画で対策を進めてきた。その中心に建つ本館(1号館/モリス館)は、竣工後5年で関東大震災に遭い中央の塔の先端が崩落し、その部分の階数を減らし今日に至っている。「次の100年を迎えてもらうこと」を合言葉に、建物の歴史に寄り添った繊細な配慮で耐震・内装・設備対策がなされた。オーセンティシティーをどう保つかについては大変な苦労があったに違いない。今後キャンパス全体の建物についても、それぞれの時代に建てた、あるいは手を加えた歴史の積み重ねをどのように伝えていくのか大きな課題が残されている。その時重要になるのは、先人の行為に敬意を払い、情熱を持って対応して行く精神性ではないだろうか。今回のプロジェクトに関わられた方々へ敬意を表したい。</p>
応募代表者	古賀 大
所属	(株)日本設計 建築設計群